

水稲苗箱の使用数量を削減できる高密度播種育苗栽培技術

欠株を抑え、減収することなく、苗箱の使用量を2～3割削減できる効率的な省力化技術

背景・目的

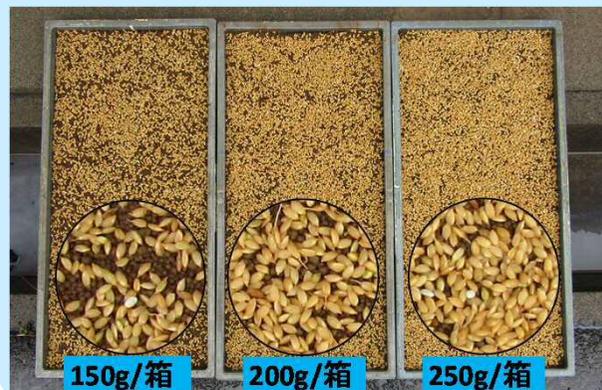
- ・農業従事者の減少，高齢化が進むなか，担い手農家等への土地集積や規模拡大が急速に進んでいる
- ・水稲専作等の大型農家においては，大規模化に必要な育苗箱数が増加
- ・育苗面積の増加や苗箱の積み込み等の労力面と併せて規模拡大の制限要因

成果の内容

【高密度播種育苗栽培】

①播種量を増やす

高密度に播種(200g/箱)



②掻き取り量を少なくする

3～5本/株に調整

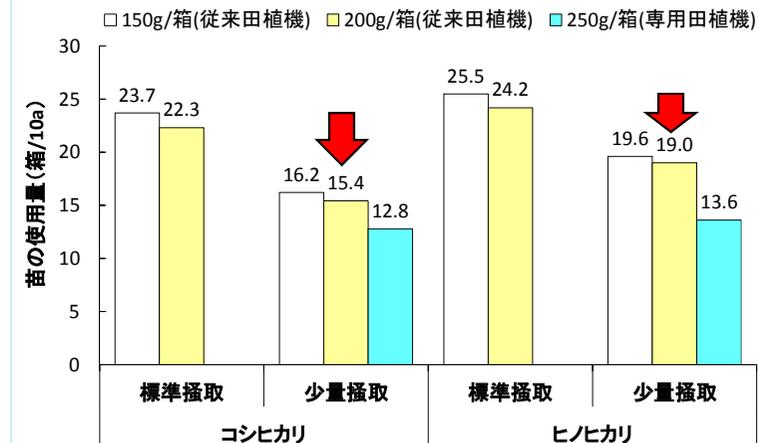


高密度播種育苗技術の効果

- 苗箱使用数量を約2～3割削減
- 収量は慣行栽培と変わらない

掻き取り量を少なくすることによって欠株率が高くなるが、播種量を増やすことで欠株の発生を抑制できる

高密度播種育苗技術の苗箱削減効果



導入メリット



早期栽培・普通期栽培においても、
苗箱使用数量を削減
・コシヒカリ 慣行比65%
・ヒノヒカリ 慣行比75%

期待される効果

育苗に係る資材類の低コスト化・省力化及び運搬作業の軽労化による水稲農家の経営改善

普及対象・範囲
水稲栽培農家(大規模経営農家)